

役

三年

画数 7
筆順

ヤク・エキ

成り立ち



役 → 後 → 役 → 後 → 役

手にもって、きになげつけて、「殺す」ぶきの形をあらわした「受」に、「道を行く」ことをあらわした「イ」をくわえて、「ぶきをもって」「いくさ」に行く」ことをあらわした字です。

「いくさに行くこと」、また「いくさ」のいみにつかいます。「前九年の役」「後三年の役」「日清戦役」などは「いくさ」のいみです。

「いくさ」は、人の生きしにかかわる大きなしごとなので、「しごと」といういみにつかわれるようになりました。

「いくさ」のいみのときは「エキ」と、漢音で読みますが、「しごと」のいみのときは、だいてい「ヤク」と呉音でよみます。

使い方

▽市役所には大ぜいの役人がはたらいています。
▽ぼくはクラブの役員にえらばれました。ぼくには大役ですが、がんばって役目をはたしたいとおもいます。
▽しばいは主役よりも脇役、とくに悪役がたいせつです。これがうまいとしばいはとてもおもしろいです。

熟語例

▽市役所（市のしごとをする所）
▽役人（公のしごとをする人。今は「公務員」といいます。）
▽役員（団体でだいじな役目をもった人のこと。）
▽役目（役の中み）というようないみで、たんに、「役」というのとあまりかわりません。）
▽主役（「主要な役」といういみのことばで、しばいの主人公の役のことをいいます。）
▽脇役（主人公の脇にいて主人公をたすける役のことです。）
▽悪役（「悪ものの役」ということで、しばいなどで主人公にいじわるして見物人からにくまれる役です。「にくまれ役」とも「かたき役」ともいいます。）

薬

三年

画数 16

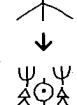
筆順

オン

ヤク

くすり

成り立ち



たいこやかねなどの楽器の形をあらわし「楽しい」といういみの「楽（2年10）」と、草の形をあらわし、草といういみの「艸」とを組み合わせて作った字で、「苦しいびようきも、これをのめばなおって「楽しく」なるという「薬草」をあらわした字です。

むかしの人は、野草をつんでかわかし、これをこなにしたり、せんじたりして薬につかいました。

「音楽は、固い心をも「軟かく溶かす」ということで「楽」には「溶かす」意味がある。「鏝」は「金属を溶かす」こと。「薬」は、「草を溶かす」の意で、「薬草を酒に溶かしたの」という意味で作られたものである。」

使い方

▽いもうとがびよう気になりました。おいしやさんのくれた薬をのむと、だいぶよくなりましたが、おかあさんは、「お薬で、ねつがひいたただけだから、まだ、しずかにねていなければだめよ」といいました。

▽「良薬は口にがし」ということわざがあります。良薬は、ききめがすぐれているが、にがくてのみにくい、といういみです。また、ためになることばは、良薬のようににがいがいことがあります。やはりのみこむと、ききめがある、といういみにもつかわれます。おかあさんのいうおこごととは、にがいがあじがしますが、やはり、聞くためになります。

熟語例

▽薬用（薬として用いること。「薬用せっけん」などがそうです。）
▽薬効（薬の効果。薬のききめ。「ちようせんにんじん」は、すぐれた薬効があるといわれている）などというふうに、つかいます。）
▽薬局（薬をあつかっているところ。おみせもありますし、びよういんにもあります。）